IWC
SCHAFFHAUSEN

IWCインヂュニア SL「ジャンボ」（RF.1832）

1970年代、ジュネーヴの時計デザイナー、ジェラルド・ジェンタは、IWCシャフハウゼンのインヂュニアにまったく新しい視覚的アイデンティティーを与えました。この力強い美的特徴を備えたインヂュニア SLは、この時代屈指の重要な作品に数えられます。現在にいたるまで、Rf.1832は、頑丈でありながらエレガントなスティール製スポーツウォッチというジェラルド・ジェンタのビジョンを完璧に表現しています。

1950年代は変化と出発の時代でした。さまざまな新しい家電製品によって家事が簡素化し、技術的進化にほとんど無限の信頼が寄せられていた時代です。技術部長だったアルバート・ペラトンは、IWCシャフハウゼン初の自社製自動巻きムーブメントの開発を完成させたばかりでした。この驚くほど効率に優れた巻き上げ機構は、ローターの両方向へのわずかな回転も利用し、主ゼンマイを巻き上げました。

この波瀾万丈の時期、IWCは初の民生用耐磁性腕時計、インヂュニアを発売しました。エンジニア、技術者、化学者、パイロット、医者など、日々の仕事で強力な磁場にさらされる職業の人のために専用開発された時計です。軟鉄製インナーケースがムーブメントを効果的に磁場から保護していました。ファラデーケージと同様、このケースはムーブメント周囲の磁気を伝導し、感度の高い内部部品が磁気を帯びるのを防ぎ、精度に影響が出ないようにします。この技術は、その数年前、パイロット・ウォッチであるマーク11のためにIWCが開発していました。

初代インヂュニア（Rf.666）は、1955年、控えめな丸型ケースで発売されました。1967年には、この比較的めだたないデザインを受け継いだ第2世代インヂュニア（Rf.866）が発売されました。しかし、1960年代の終わり頃になると、「新しいヘビーなインヂュニアのスティールモデル」を開発するというアイデアがIWCの管理職の間で共有されるようになります。議事録によると、IWCがこのプロジェクトに乗り出したのは、1969年8月1日のことでした。新しいインヂュニアには衝撃保護機構を組み込むことで、いっそう頑丈にすることが目標となりました。しかし、技術的側面をさらに強めるために、新しいケースへの期待も寄せられました。1970〜1971年、最初のプロトタイプが製造され、テストされました。しかし、これは厳格な衝撃試験に不合格となり、IWCの厳しい品質基準を満たすことはできませんでした。

続いて、IWCは社外デザイナーを探すことにしました。当時、ジュネーヴ出身のジェラルド・ジェンタはフリーランスの時計デザイナーで、IWCとも関係がありました。すでに1967年、ジェンタはシャフハウゼンに本拠を置くIWCのためにスティール製クロノグラフをつくりましたが、そのプロジェクトは実現しませんでした。ついにIWCは、ジェラルド・ジェンタに新しいインヂュニアをつくることを依頼しました。ジェラルド・ジェンタの仕事が完成したのは、1974年のことでした。そのスケッチには、一体型スティール製ブレスレットと独特な構造の文字盤を備えた、印象的な時計が描かれていました。しかし、最も重要なデザイン上の特徴は、5つの凹みのあるねじ込み式ベゼルでした。

当時、スイスの時計業界は複数の面から圧力を受けていました。極東からは、安価なクォーツ時計が市場を席捲していました。しかし、もっと深刻だったのは、ドル相場が急落し、同時にゴールドの価格が過去の最高値に達したことです。IWCの製品ポートフォリオは、当時は主としてゴールドウォッチで構成されており、これが突然、3倍から5倍の価格に上昇したのです。当時のマーケティング＆営業部長ハネス・パントリは、ステンレススティール製の製品を大幅に充実させることに決めました。こうしてパントリは、IWCで一般にSLコレクションと呼ばれるスティール製ラグジュアリースポーツウォッチを開発したのです。

IWC Schaffhausen · Baumgartenstrasse 15 · 8201 Schaffhausen, Switzerland
Phone +41 (0)52 235 75 65 · Fax +41 (0)52 235 75 01 · press@iwc.com · press.iwc.com

ジェラルド・ジェンタのインヂュニア SL（Rf.1832）は、このSLコレクションを代表するモデルとして、1976年、2,000スイスフランという当時としては高価な価格で発売されました。40 mmというサイズから、このウォッチはすぐに「ジャンボ」というニックネームで呼ばれるようになりました。これを駆動する自動巻きムーブメント、キャリバー8541は、ラバー製の緩衝材に取り付けられ、衝撃から最適に保護されていました。また、軟鉄製インナーケースにより、最大80,000 A/mの磁場からも効果的に守られていました。

その後、スティール＆ゴールドやゴールドのインヂュニア SLも発売されました。IWCでも複数のバージョンのクォーツムーブメントを製造していましたが、革新的なデザインにもかかわらず、このモデルは商業的には成功しませんでした。インヂュニア SLは手首に装着すると、大きくて重く、ほとんどかさばるように感じられます。当時のほとんどの顧客は平らなクォーツ時計を求めていたので、1976〜1983年で1,000個少々売れただけでした。コレクターがこの「ジャンボ」に目を向けるようになったのは、1990年代以降のことです。現在、このモデルはIWCの歴史全体でも屈指の垂涎の的となっています。

ジェラルド・ジェンタが創造力のピークとなる1970年代の時期にインヂュニア SLをつくったという事実は、歴史的に重要です。1972〜1976年、ジェラルド・ジェンタはいくつものスティール製スポーツウォッチをデザインし、スイスの時計業界でまったく新しい製品カテゴリーを確立しました。ステンレススティール製のウォッチがこれほど高価で売れるようになったのは、初めてのことでした。

5個の凹みのあるねじ込み式ベゼル、独特な模様の文字盤、Hリンクの一体型ブレスレットなど、力強い美的特徴を備えたインヂュニア SLは、ジェラルド・ジェンタの芸術スタイルの本質的な要素を物語っています。ジェラルド・ジェンタの主要作品のひとつでもあり、頑丈でありながらエレガントなスティール製スポーツウォッチというジェンタのビジョンを完璧な形で具体化しています。

IWC Schaffhausen · Baumgartenstrasse 15 · 8201 Schaffhausen, Switzerland
Phone +41 (0)52 235 75 65 · Fax +41 (0)52 235 75 01 · press@iwc.com · press.iwc.com

IWC
SCHAFFHAUSEN

IWCシャフハウゼン

IWCシャフハウゼンは、スイス北東部のシャフハウゼンに拠点を置く、スイスの大手高級時計メーカーです。ポルトギーゼやパイロット・ウォッチなどのコレクションを擁するこのブランドは、エレガントな時計からスポーツ時計まで、あらゆる種類の時計を扱っています。1868年、米国の時計技師でエンジニアでもあったフロレンタイン・アリオスト・ジョーンズが設立したIWCは、人間ならではの職人技と創造性、その最良の部分と最先端の技術および工程とを組み合わせた、時計製造に対する独自のエンジニアリングで知られています。

150年以上にわたる歴史の中で、IWCは精巧かつ丈夫で使い勝手のよいプロ仕様の計器時計や、複雑機構（とりわけクロノグラフとカレンダー機能）を組み込んだ時計をつくり、高い名声を得てきました。チタンやセラミックの採用の先駆者であるIWCは、現在、カラーセラミック、セラタニウム®、チタンアルミナイドなどの先進的な素材を用いた、高度なエンジニアリングと専門知識を駆使したケースも製造も行っています。

持続可能な高級時計の第一人者であるIWCは、責任をもって素材を調達し、環境への影響を最小限に抑えるための努力を惜しみません。透明性、循環、責任という3つの柱に沿って、このブランドは何世代にもわたって長持ちする時計をつくり、責任をもって製品を製造、流通、修理するためのあらゆる要素を継続的に改善しています。さらに、IWCは子供たちと青少年への支援に向けて世界的に活動している組織とも提携しています。

ダウンロード

画像はpress.iwc.comで無料でダウンロードいただけます。

お問い合わせ

IWCシャフハウゼン
広報部門
Email press-iwc@iwc.com
Website press.iwc.com

インターネットおよびソーシャルメディア

Website iwc.com/ja
Facebook facebook.com/IWCWatches
YouTube youtube.com/iwcwatches
Twitter twitter.com/iwc
LinkedIn linkedin.com/company/iwc-schaffhausen
Instagram instagram.com/iwcwatches_jp
Pinterest pinterest.com/iwcwatches